

城下町探訪 4

2009/4/23

大手橋・大手門跡

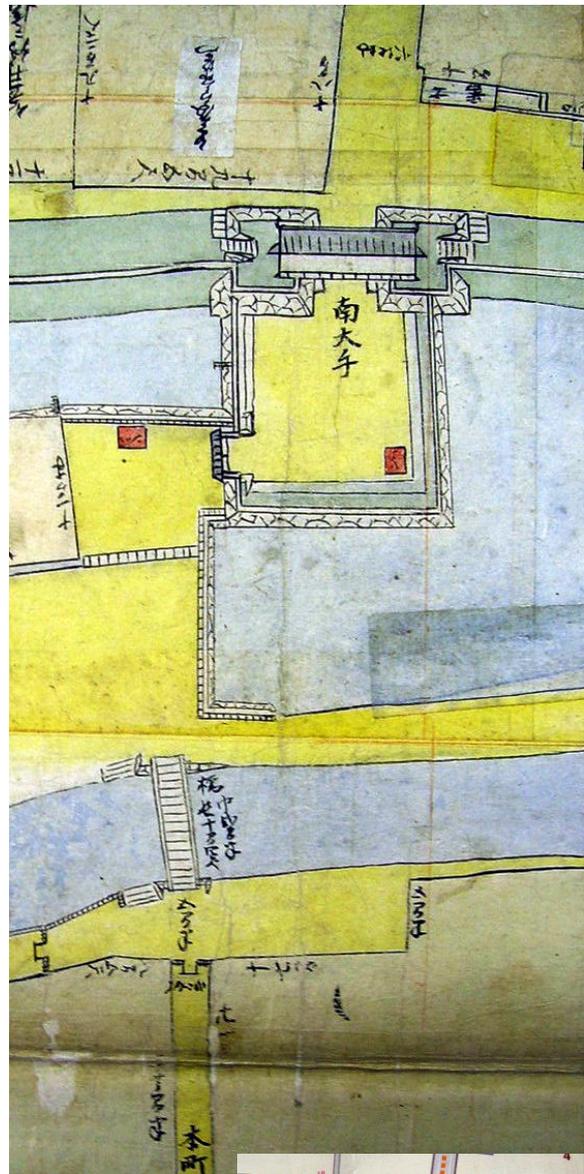
松本城の大手門（表門）は女鳥羽川にかかる大手橋を渡り現在の八十二銀行ビルのあたりにあった。本町から北に直進する道路は下の地図のようにクランク状に曲がって大名町通りとなる。この屈曲はここに大手門枳形のあった名残である。

信府統記によれば水野忠直公の時の規模は南大手門櫓は5間×10間5尺。大手門枳形は東側18間・南15間4尺5寸西18間である。図で赤の■は番所である。

本町から大手橋を渡る前には木戸があり大手橋を渡り直進すると外番所があり右に折れると大手門枳形の二の門をくぐる。そして大手門枳形の一の門を抜けると大名町通りになる。勿論、庶民は通行できなかった。大手橋を渡り大名町に自由に通行出来るようになったのは明治3年7月のことである。（庶民が郭内に入る場合は東門から入った）

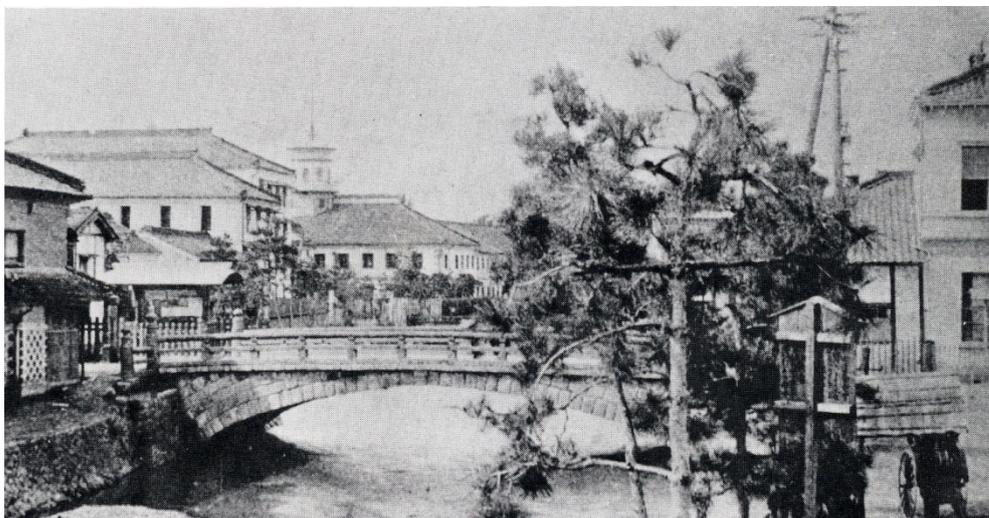
この大手門は明治4年の末ころ旧藩の諸施設とともに取り壊された。跡には一の門の門台が残された。

明治6年に開催された松本博覧会の宣伝の錦絵に、大手門の門台が描かれている。この門台の石は明治9年大手橋掛け替えに際し使用され千歳橋としてよみがえった。



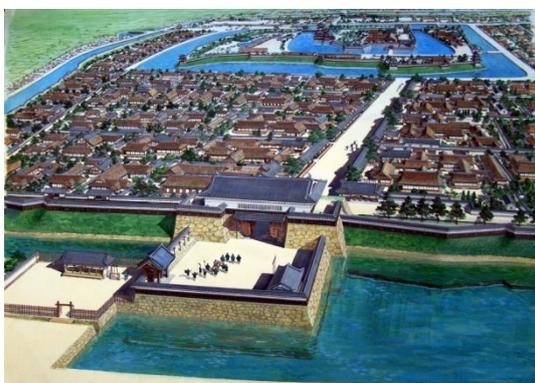
○大手橋は板橋で幅2間半長さ10間4尺であった。

明治時代の千歳橋

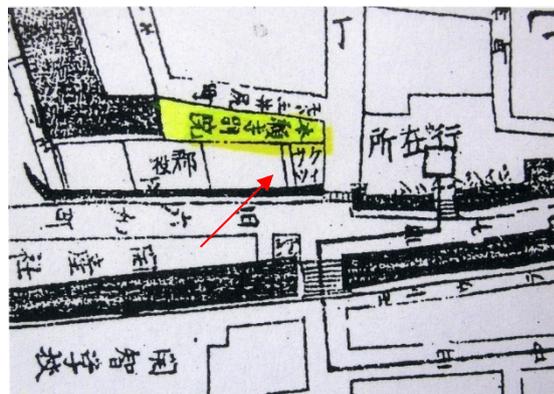


明治9年9月大手橋掛け替え工事が着工された。旧大手門門台の石が使われたことはすでに述べたが、設計監督は南深志町戸長河野百寿である。石工は久保田兼太郎であった。

竣工は明治9年12月2日である。この橋は東京神田萬世橋の規模になったものであったので橋名もこれになら^{せんざいぼし}い千歳橋と改めた。大手門の石材は明治11年に博労町と本町の間の緑橋、明治13年には現四柱神社内御幸橋にも転用された。



中西立太イラスト



「明治13年長野県信濃国松本駅略図」より

上のイラストでもわかるように大手門枳形は南総堀に付き出している。この大手門より東側の総堀は明治11年～15年に埋め立てられ明治13年には事務分局と四柱神社の神殿が創建され6月、明治天皇の巡幸があった。(行在所(あんざいしょ)とあるところが四柱神社)

大手門枳形より西側の総堀は上地図のように明治13年から埋め立てられて本願寺別院が建てられている。警察署は旧藩郡所の東で、大手門枳形外番所のあった区域に建てられている。上図、警察署西側に小路があるがこれは現在も残されており八十二銀行と大和証券の間の小道である。